

MUSIC CULTURAL STUDIES

研究と実技を両輪に、
次代の音楽文化を担う人材を育成

音楽文化専攻



専門的な知識・確かな技術により国内外の舞台において
音楽の感動を表現者として自ら発信するとともに
音楽文化を地域社会に広められる人材を育成します

- 声楽コース**
声楽家として基礎を身に付け羽ばたく
- 鍵盤楽器コース**
生きるピアノが世界を広げる
- 作曲コース**
多様な音楽の発信者を目指して
- 管弦打楽器コース**
時代を切り開く新しい学生像を追求
- 音楽教育・音楽文化コース**
世界中の音楽の価値を社会に伝え広める

音楽文化専攻 / 4年間のスキルアップ



1年 音楽・文化の学びのスタート

幅広い視点から芸術に対する基礎的な知識を身に付けます。そして専門実技のレッスンも1年次からあります。

2年 コースでの基礎固め

専門実技のレッスンや、基礎的な音楽の訓練のほか選択科目を受講して、芸術の役割を学びます。

3年 より専門的に実践的に

より専門的な研究や実技の幅広い形態を、実践活動を通して学びます。

4年 理論と実践の集大成

専門分野での集大成の年です。大きな目標を持ち、卒業演奏・卒業論文に取り組みます。

専攻専門科目

【コース選択科目】

- 弦楽アンサンブル
- 室内楽
- 重唱
- ピアノ・アンサンブル
- 音楽史 ■ 日本音楽
- コンピューターと音楽文化
- 録音技術実習
- 指揮法
- オペラ舞台文化論
- 身体表現
- 邦楽実習 他

【コース別科目】

- 実技レッスン
 - ・ 声楽
 - ・ ヴァイオリン
 - ・ コントラバス
 - ・ クラリネット
 - ・ ホルン
 - ・ チューバ
- ピアノ
- ・ ヴィオラ
- ・ フルート
- ・ ファゴット
- ・ トランペット
- ・ ユーフォニアム
- 音楽教育
- 音楽文化
- 音楽理論 他

【専攻共通科目】

- ソルフェージュ
- 合唱
- 合奏(オーケストラ、吹奏楽) 他

声楽第1研究室

久保 光哉 Mitsuya Okubo

歌は人類が誕生してからずっと続いてきた最も根源的な表現方法の一つです。声という素材を使って、人間を表現することの豊かさを共に体感していきましょう。私の研究室では、日本歌曲やアンサンブルにも取り組んだり、様々なオーディション、コンクール、オペラや演奏会に参加する学生もいます。そうした演奏や研究を通して人間の本質に迫り、[声]を使っているコミュニケーション能力を高め、感動を世界に発信していきましょう。

声による感動を
あらゆる人に



声楽第2研究室

服部 麻実 Asami Hattori

人の声は類稀な表現力を持ち、様々な感情を伝えることができます。そして歌には色々なジャンルがありますが、声楽はそのそれぞれに美しさや能力を最大限に伸ばすことができ、豊かな感情表現を可能にします。研究室では発表会「メロディア」、ロシア音楽のタベ「ロシアン・ナイト」を開催、音楽を勉強しながら社会や文化に関心を持って欲しいと思っています。声楽の勉強は個々に進捗が異なることもありますが、私はそれぞれに合った指導をし、皆さんの歌の花を咲かせたいと思っています。一緒に勉強しませんか？

歌の学びを
人生に活かす



※音楽文化専攻の研究室への所属は、教員の退職や所属人数等により、希望に添えない場合があります。



鍵盤（ピアノ） 第1研究室

二宮 英美歌 Emika Ninomiya

私の研究室では、皆さんの夢と希望を実現するために、4年間をかけて、共に音楽と学びを築き上げていけるよう心がけています。在学中に様々なコンクールやオーディションに挑戦して優秀な成績を取っている人もいますし、じっくりとピアノと語学等の勉強に向き合う人もいます。私自身は、フランスでの留学や演奏経験を生かして、世界の文化を学び共感する大切さを伝えています。皆さんも、音楽を通して人として成長し、心を豊かにし、この「世界」を支えて欲しいと願っています。



音楽で「世界」を
支えていく人になろう

令和8年3月退職予定



鍵盤（ピアノ） 第3研究室

松永 加也子 Kayako Matsunaga

本研究室では4年間、ピアノを学ぶことにたくさんの時間を費やしていくことになります。同時に、卒業後の自分の人生においてピアノをどのように位置づけるか、じっくり考える時間にもなります。研究者を目指すして大学院に進学する人、ピアノ講師と演奏活動を両立する人、ピアノを続けることも視野に入れて就職を目指す人、それぞれが自分の輝ける道を見出してゆきます。一人一人が様々なかたちで、これからの音楽文化を支えてゆく人材として、羽ばたく手助けをしたいと考えています。



音楽の学びを通して
人生を切り啓く



鍵盤（ピアノ） 第2研究室

樋口 英子 Hideko Higuchi

卒業生も含めてコミュニケーションを大切に学び合う、温かい雰囲気を受け継がれているピアノ研究室です。知識や経験を積み上げながら時代と向き合う中で、思考力と対話力は発想や表現の豊かさにつながるものです。ピアノを弾くために活きる引き出しは実に多様ですが、まずは好きなことを入り口にしながら世界を広げ、5年後になりたい自分について考えてみてください。夢に向かうために必要なサポートを尽くします。未来に向けて自分をしっかり生きることを目指しましょう。



音楽を学ぶ。人を知る。
自分を生きる。

令和7年3月退職予定



鍵盤（ピアノ） 第4研究室

野呂 佳生 Yoshio Noro

ピアノの表現方法、技術を学ぶ研究室です。学生の間では飲み門と呼ばれており皆楽しく学んでいます。毎年多くの学生がコンクールや演奏会など積極的に取り組んでいます。私は自分で考えて演奏できる自立した音楽家に成長できるよう支援しています。卒業後の進路は演奏家、ピアノ教師、教員、一般就職、進学、留学等様々ですが、皆で連絡を取り合いながら演奏活動を続けています。岩見沢校では演奏以外にも、演奏会や遠征を組むことで調整能力や協調性、責任感など社会人として必要なことも多く学べます。



自分の表現を見つけよう！



作曲第1研究室

阿部 俊祐 Shunsuke Abe

作曲第1研究室では、新たな音楽を創造するための作・編曲理論と実習を研究しています。芸術音楽分野では特に近現代フランス音楽を中心に研究しており、主に音楽作品として研究成果を発表しています。芸術音楽分野だけでなく、吹奏楽や映像音楽などジャンルは多岐に渡ります。教育としては曲を作るだけでなく、DTMや楽譜制作などの専門技能の習得も目指し、卒業後は広く作曲家として活躍したり都内音大大学院や海外留学などに進学する卒業生も多いです。



新しい音楽を創造する



金管楽器（ユーフォニアム）・合奏研究室

渡部 謙一 Kenichi Watanabe

成熟期を迎え新たな展開を期待されている日本の吹奏楽として管楽器教育メソッドを、最先端の現代音楽作曲家とのコラボレーションにより構築し、日本そしてアジアのカルチャーとして普遍的な音楽美を追求することが、これから重要だと考えられます。困難にとらわれた考え方や価値観を見直し、現代に即し、そして未来の光につながる創造活動を展開していきたいと考えています。また日本国内の少子化に伴う地域文化とのつながりにも視点を当て、部活動や管楽器教育のあり方全般の新たな展開にも寄与することも重要な課題です。



最先端の吹奏楽作品創造とメソッド再構築



作曲第2研究室

北爪 裕道 Hiromichi Kitazume

多種多様な音楽やパフォーマンス、情報やツールが溢れている昨今、作り手には、幅広い視野をもちつつも本質を見極めながら自分で音楽を考えられる力がいっそう大切になってきています。音楽について深く知り、感性を磨きながら、興味のある領域はどんどん深めて一緒に音楽で冒険しましょう。岩見沢校には、クラシック音楽の技術はもちろん、コンピュータ音楽やテクノロジー、様々な文化を学び実践できる環境があります。周りには音楽仲間がたくさんいて、大編成の曲を演奏できる機会も。皆さんの挑戦を応援・サポートします。



音楽の可能性を、広く深く



弦楽器（ヴァイオリン）・合奏・室内楽研究室

長岡 聡季 Satoki Nagaoka

2019年に本校学生によるアンサンブルを率いて、ドイツへの演奏旅行を主催しました。本場の聴衆の前での演奏や、現地での研修や生活を通して、ヨーロッパに発祥したクラシック音楽を肌で感じる、素晴らしい機会となりました。長岡研究室では、弦楽器が含まれる多様なジャンルの作品を対象に、演奏や研究を通して作品の本質に迫ることを最も大切にしています。演奏家や指導者としてのスキルを高めることはもちろん、小・大編成のアンサンブルを通してコミュニケーション能力を磨き、世界へと発信していきます。



北海道から世界へ音楽を発信



音楽文化と 現代コミュニティ

音楽文化研究室

岩澤 孝子 Takako Iwasawa

音楽文化研究室のキーワードは「アジア」、「コミュニティ」、「身体」、「創造性」です。特徴的な取り組みとしては、舞踊公演を含むタイとの国際交流事業があります。また、歌とダンスで北海道を再発見する「Do Do 北海 Do プロジェクト」も手掛ける創造性豊かな研究室です。多様な音楽文化を手掛かりに互いに刺激し合い、自由な発想で「他者とコミュニケーションする力」や「コミュニティの課題解決力」を養います。ここで深めた学びを生活や社会へ還元する力を持つ人材育成を目指しています。



身近にある 様々な音から考える

音楽教育研究室

金崎 惣一 Soichi Kanazaki

音楽教育研究室では、カナダの作曲家であるR.マリー・シェーファーが提唱した「サウンドスケープ（日本語で「音の風景」を意味します）」という考え方を中心として、様々な活動に取り組んでいます。音楽にとって「きく」ことは何より大事なことです。が無意識のうちにいる音（いらぬ音）など区別していないでしょうか？サウンドスケープに関わる考え方をベースにした様々な活動を通して、音や音楽に関わる様々な事柄について考えを深めます。それらを踏まえて、将来教育現場に立つための素養や具体的な手法について学びます。



学生インタビュー

Youは何しに岩教へ？

Why did you come to Gankyo?

You

小野寺 陸

所属：音楽文化専攻声楽コース 声楽第一研究室3年

出身高校：岩手県立不來方高等学校



Youはどうして岩見沢校に入学したの？

私の出身高校は、音楽科と言われる音楽関係の進学を見据えたカリキュラムがある学科であり、3年間たさんの先生に教わりました。

その中でも特に印象に残っている先生の一人に、岩見沢校の卒業生でもある山本修平先生という先生がいらっしゃいました。先生は、岩見沢校の特色である、教育大学の中でも特に音楽を重視して学んだ経験を生かして、高校生の私に「音楽を教える才能」と「音楽を奏でる才能」で音楽の魅力を伝えてくれました。自分も「山本先生のような先生になりたい!」と思い、岩見沢校に進学しました!

Youは今どんな活動をしているの？

専攻科目である「声楽」で師事している大久保先生の下、歌の研究・練習を重ねています!また、課外活動として、様々なコンクールやオーディション、キャストとしてオペラ公演への出演にも積極的に参加しています。



▲第2回国際声楽コンクール東京で第1位を受賞
◀オペラ「フィガロの結婚」で演じたアントーニオ役

卒業後のYouは何する予定？

入学当初は、教員になりたいという夢が強かったのですが、現在は音楽をより専門的に学びたいと考えているため、大学院へ進学したいと考えています。

岩見沢ってどんなところ？

北海道の中では、札幌や旭川、函館のような都会的な要素はあまりないのですが、自然豊かで勉強に集中できると思います。また、札幌・旭川のちょうど間にあるので、都市部にもアクセスはしやすいです。レッスンやコンクールを受けに東京に長期間滞在したことがあるのですが、その時は思わず岩見沢が恋しく感じてしまったことがあります...それほど岩見沢には魅力があります!大学生として、遊ぶことと学ぶことが両立できる場所は、北海道には岩見沢以外ないと思います!



同じ専攻の仲間と楽しく音楽を学んでいます

受験を考えている皆さんへ、Youからのメッセージ

岩見沢校は、教育大学の一般的なカリキュラムに加え、専攻科目を重視して学ぶことができます。授業の中には合唱や器楽での合奏、重唱や室内楽など、音楽大学さながらの経験ができます。皆さんと一緒に音楽を勉強できる日が来ることを心待ちにしています!

音楽文化専攻 入試情報

募集人員・選抜方法・配点

	募集人員		選抜方法	配点	
学校推薦型 選抜(一般)	10		実技検査		
			面接/15分程度		
一般選抜 (前期日程)	声乐	3	大学入学共通テスト	500	1,500
	鍵盤楽器	10			
	作曲				
	管弦打楽器	10			
	音楽教育・ 音楽文化	3	実技検査	1,000	
一般選抜 (後期日程)	4		大学入学共通テスト	500	1,500
			実技検査	800	
			面接/15分程度	200	

※各選抜の実技検査の内容は、コースごとに異なります。(下記参照)

各選抜の実施方法等

学校推薦型 選抜(一般)

学校推薦型選抜(一般)への出願は、「学生募集要項」に記載の出願要件を満たし、高等学校の推薦を受けることが条件となります。事前に提出する「自己推薦書」等の書類と、試験当日に課す「実技検査等」、「面接」により総合的に評価し、コースにかかわらず総合得点の高得点順に選抜します。大学入学共通テストは課されません。

参考: Q&A (p.50)

【試験科目】

- ソルフェージュ(全員) (1) 聴音 (2) コールユーブンゲン (3) 楽典
- 主実技等
 - 声乐コース……………自由曲
 - 鍵盤楽器コース……………自由曲
 - 作曲コース……………「和声ソプラノ課題」「和声バス課題」「自作品の提出」の中から2つを選択
 - 管弦打楽器コース……………
管楽器: 受験する管楽器による初見視奏/音階/自由曲
弦楽器: 受験する弦楽器による初見視奏/音階/自由曲
打楽器(小太鼓、マリンバの中から一つを選択): 受験する打楽器による初見視奏/基礎課題/自由曲
- 音楽教育・音楽文化コース…自由曲(ピアノ、声乐、和楽器、民族楽器の中から一つを選択)
- 面接

一般選抜

■ 大学入学共通テスト

必要科目は国語と外国語が必須、数学・地歴公民・理科の中から1教科選択の、3教科3科目又は4科目です。

■ 前期日程

- ソルフェージュ(全員) (1) 聴音 (2) 新曲視唱 (3) 楽典
- 主実技等
 - 声乐コース……………課題曲/自由曲/副実技(鍵盤楽器又は管弦打楽器のいずれか1つを選択)
 - 鍵盤楽器コース……………指定された曲集から任意の1曲と、指定された曲集以外の任意の1曲
 - 作曲コース……………和声ソプラノ課題/和声バス課題/自作品の提出/口頭試問/副実技(声乐、鍵盤楽器、管弦打楽器のいずれか1つを選択)

- 管弦打楽器コース……………
管楽器: 音階/課題曲/自由曲/副実技(鍵盤楽器: J.S.バッハ作曲 インヴェンションとシンフォニアより任意の一曲)
弦楽器: 音階/課題曲/受験する弦楽器による簡易な初見視奏/自由曲/副実技(鍵盤楽器: J.S.バッハ作曲 インヴェンションとシンフォニアより任意の一曲)
打楽器(小太鼓、マリンバの中から一つを選択): 基礎課題/課題曲/自由曲/副実技(鍵盤楽器: J.S.バッハ作曲 インヴェンションとシンフォニアより任意の一曲)
- 音楽教育・音楽文化コース…音楽に関する基礎的試験/ピアノによる自由曲(自作の演奏、弾き語りも可能。和楽器、民族楽器の弾き語りも可能)又は、自己表現(音楽文化に関するプレゼンテーション又はダンス等の身体表現を含む)

■ 後期日程

- ソルフェージュ(全員) (1) 聴音 (2) 新曲視唱
- 主実技等
 - 声乐コース……………自由曲
 - 鍵盤楽器コース……………自由曲
 - 作曲コース……………モチーフを与えての作曲/和声バス課題
 - 管弦打楽器コース……………管楽器: 音階/自由曲
弦楽器: 音階/自由曲
打楽器(小太鼓、マリンバの中から一つを選択): 基礎課題/自由曲
 - 音楽教育・音楽文化コース…自由曲(ピアノ、声乐、和楽器、民族楽器から一つを選択)
- 面接

CHECK

前期日程の実技検査の内容は、音楽に関する基礎的な知識・能力に加え、専門性、表現力などを総合的に測る課題となっています。
後期日程では、基礎的な音楽能力をソルフェージュの試験で見ることと、主実技で自由曲が中心になっていることが特徴です。また、面接も課し、入学後の勉学意欲や、音楽技術についての意欲・関心なども含めて総合的に評価します。

過去の入試問題 【令和5年度一般選抜(前期日程・後期日程) 実技検査】



過去の試験問題は本学ホームページの「入試情報」で公開されています。

<https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/faculties/exam/data/>



ソルフェージュとは

- ソルフェージュの試験には大きく、聴音(単旋律、4声と音)、新曲視唱、コールユーブンゲン、楽典の4科目があります。いずれの科目も、大学で音楽を学ぶ上で最低限必要な基礎となるものです。できるだけ早い時期から準備を始めることをお勧めします。
- 聴音は、ピアノで演奏された音を聴き取って楽譜に書き記す試験です。岩見沢校の試験では長さが8小節程度で、単旋律と、連続する4声と音の2種類があります。調や拍子、演奏回数や演奏前の基準音の与え方などは当日発表されます。
 - 新曲視唱は、当日与えられる旋律を予見の後に視唱する試験です。予見時間は当日指示されます。コールユーブンゲンは、曲集の中から当日指定される1曲を歌唱する試験です。いずれも歌唱開始前に主和音や開始音などの基準音がピアノで与えられます。
 - 楽典は、音程、拍子、調、音階、楽譜等に関する筆記問題です。試験時間は当日指示されます。

※入試情報ページに記載の内容は前年度実施した内容であり、今後変更になる可能性があります。必ず大学ホームページや、「入学者選抜要項」「学生募集要項」で最新の情報を確認してください。